

第7次総合計画策定に向けた
地区別ワークショップ（北会津地区）要旨

【日時】 平成27年11月16日（月）18:30～20:30

【場所】 北会津公民館

【ワークショップ 参加者】 17名

【ファシリテーター（進行役）】 ㈱日本経済研究所 2名

【事務局等】 企画調整課職員 3名

【配付資料】

- ・資料1 地区別ワークショップ（北会津地区）次第
 - ・資料2 農村活性化事例
 - ・資料3（表面） 地区別ワークショップ資料 会津若松市 全体資料
 - ・資料3（裏面） 地区別ワークショップ資料（北会津地区WS） 北会津地域
-
-

テーマ：「農村・農業の活性化」～より豊かで暮らしやすい地域を目指して～

【議事】

1. 開会（企画調整課）

2. 配布資料説明

（1）新総合計画について（企画調整課）

- ・地区別ワークショップでは、地区ごとにテーマを設定し、話し合いをする。地域の方から出されたアイデアを新総合計画に盛り込みたいと考えている。

（2）ワークショップ次第、資料2、資料3について解説（進行役）

⇒ 全体説明後、3グループに分かれて作業を実施した。Aグループ及びCグループに、市職員、日本経済研究所の職員がBグループに入り、進行支援を実施した。

3. ワークショップ（進行役）

（3）第1部「農業が盛んなまち・農村としての北会津」の視点から、北会津地区の良い点・自慢できる点を付せんに記入

- ・「農業が盛んなまち・農村としての北会津」の視点から、北会津地区の良い点や自慢できる点をポストイット（付せん）に記入（作業）
- ・自己紹介しながら、記入した内容を各グループ内で発表
- ・グルーピング（分類）してキーワードを設定

i) Aグループ

- ・ご近所さんから沢山おすそわけがある、地域の情報が何でも入る、近所の住民をほぼ知っている、姓で大体の出身地区がわかる、お年寄りが農業に取り組んでいる、子どもの教育に熱心。大家族（3世代、4世代）が多い、集落単位では比較的まとまりがある、物々交換がずっと続く、親子同士・子供同士の交流がある。

- ・果物が豊富だが一番がない、米・果物・野菜が何でもできる、米が美味しい、農業基盤が良好
- ・水が豊富（用水、排水等も）、景色が良い、自然が豊か、磐梯山がきれいに見える、四季のにおいがある、四季がはっきりして景色が良い、鼻毛が伸びない、北会津支所の展望台からの景色が良い、自然災害が他県の地区より少ない、会津盆地が見渡せる
- ・授業で農業を体験できる、学校が比較的新しい、動植物の知識が深まる、小学生・幼稚園のスポーツが盛ん（サッカー、マラソン）、彼岸獅子が素敵
- ・アクセスが良い
- ・地形がほぼ起伏がない、道路が直線、山がなく平坦である、防雪ネット・ゲートが素晴らしい、除雪がきれい、自前で除雪ができる。

ii) Bグループ

- ・若い農業後継者が多い、直売所が沢山あり、生産者との触れ合いができる
- ・頑固、頭が固い、人柄が良い、大らか、のびのびしている
- ・観光農園が盛んである（さくらんぼ、いちご、ブルーベリーなど）、様々な果物・花・野菜が栽培できる、野菜・米・果物がとてもおいしい（直売所で人気がある。）
- ・農業経営での所得が高い
- ・地産地消を多く取り入れている（学校給食）、食料自給率が高い、学校給食で地元の野菜や果物を多く使っている
- ・季節の行事が残っており、子どもたちが自然に伝統を受け継いでいる、色々な伝統年中行事の継承、ホタル、季節の様々な遊びができる。
- ・豊かな水、水が良い（地下水）、地下水を飲用水として使うことができる。
- ・会津地域の中でも立地が良い、土地が広く農作業を通した健康増進を図ることが可能
- ・農地が整備されているので農作業がしやすい、豊かな農地である
- ・田園風景が美しい、風光明媚である、端から端まで虹が見えることがある
- ・交通が不便で店が少ないので子供が夜ふらふらできない、不便な生活を強いられる子どもたちは豊かな大人になると思う、市街地よりも塾に通う子が少なく発想が豊かになる、大人になってから力を発揮できると思う、人と人とのつながりが濃く子供の教育に良い、子どもがのびのび育つ環境、子育てしやすい環境、お墓参りなどを通して命のつながりを知ることができる、地域コミュニケーションがとり易く疎外感を持つことが少ない、ご近所の付き合いが多いので顔を覚えていただける、世代間の交流が自然にできる、高齢者や乳幼児などの弱い立場に立てる人が多い、親子代々北会津に住んでいる人が多い、学校の保護者会などの力があるように感じる。

iii) Cグループ

- ・農業が盛んなまち、料理や菓子作り教室の開催、農業のプロとして家庭菜園へのアドバイス、放置されている畑の利用
- ・面倒見の良さ
- ・山がない、四季がある、田んぼ道でもよい、田園風景がきれい、ホタルが見られる、イトヨがいる

- ・コンビニが3店舗ある、ガソリンスタンドが2つある
- ・観光農業が盛ん、農家民宿がある、サクランボ園に観光バスがある、修学旅行生の農業体験を進める
- ・米ばかりでなく野菜や果樹や花もある、雪の中でイチゴができる、伝統野菜がある

(4) 第2部 キーワードを踏まえて、北会津地区における農業の活性化策や取組について検討

- ・書記決定
- ・キーワードを踏まえて、具体的にどのような取組を行えば、より地域が豊かで暮らしやすくなるか、話し合いを行う。
- ・取組について、「①具体的な方策」と「②実施主体」の2つについて話し合い、話し合った結果を書記がポストイット（付箋）に記入し、模造紙に貼付
- ・発表者決定
- ・各グループの成果として、①の内容について全体発表した。②については、各グループとも時間が不足し、十分な検討に至らなかった。

i) Aグループ

キーワード	課題等	対策、取組み方策
景色がいい、自然が豊か	・商業施設、娯楽施設がない	・高い建築物を建てない ・支所展望台を活用する
農産物が豊か	・PRが難しい、PRが下手 ・都市計画法の制約がある ・売り先が見つけれられない ・味はよい ・自分では糖度が測れない ・消費地にアンテナショップがない	・「まんまーじゃ」のような直売所を作る ・都会に売り込む ・現在の歩合制であると農家の方の手取りが少なくなるため、定額制の集荷にする ・大型商業施設と地元PRセンターの併設（その際は、地元の野菜を置いてもらうようにする） ・道路整備 ・売り先を見つけるための、マッチングサイトや施設を作る（意見交換の場所） ・高齢者向けの宅配システムを作る ・野菜以外のものも売る（肉、魚） ・規制緩和、農家とお客様の直契約を進める
人間関係・交流が密	-	・地域のつながりを活かした高齢者や子どもの見守りを行う
道路がきれい（地形、除雪）	・公共交通機関の使い方がわからない ・大型の公園がない	・店をつくる
独自の教育	-	・農業に関する教育や文化教育を進める

※Aグループについては、キーワードに対し、考えられる課題を一旦抽出したうえで対策を検討した
ものがある。

ii) Bグループ

キーワード	対策、取組み方策
観光農業が盛ん 農産物の種類が豊富	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行や農業体験を増やす ・情報発信力を高めて海外の方を呼び込む
地産地消（直売所含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消の地域の拡大（学校や幼稚園、学食）
水が豊富 農業を営みやすい土地柄 農地が整備されている	<ul style="list-style-type: none"> ・農地の維持のために、農業をしたい人を呼びこむ ・空いている耕作地の活用を行う ・情報発信（農業に携わる人は高齢化しており、情報機器の扱いが苦手であるので、若い人を巻き込んでSNSなどを活用した情報発信を実施する）
若い農業後継者が多い	<ul style="list-style-type: none"> ・婚活イベントの開催（独身の農業後継者が多いため） ・若者の食農教育の推進を行い、若い農業後継者を育てる
地域コミュニティが盛ん 子育て環境が良い	<ul style="list-style-type: none"> ・食農教育の推進（長年農業に携わる方を巻き込む） ・伝統、文化の継承をこれからも続ける

※取組主体に関しては、何を行うに当たっても、行政・農協の方・農家の方等の連携が必要であることが挙げられた。

iii) Cグループ

キーワード	対策、取組み方策
豊かな自然 都市・市民との交流（観光農業） 美味しい農産物	<ul style="list-style-type: none"> ・鶴ヶ城に訪れた観光客を北会津地域へ連れてくる（新しい観光ルートを作る） ・マスメディアの利用、観光・農業・商業・工業等の融合した情報発信 ・北会津の農産物のブランド化を推進する ・日本橋にある福島のアナテナショップではなく、上野や巣鴨に直売所を設け、高齢者や若いお母さん世代に売る ・農産物の加工、商品化、販売を行う
世代を問わない人の良さ 地域内の交流 地区同士の交流	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭菜園用の土地利用の推進（市内の人に貸出） ・おいしい農産物をレシピで共有 ・地元のお年寄りを先生にした、農業教育の推進
生活の便利さ	<ul style="list-style-type: none"> ・Iターンの受入れ体制構築、農地・住宅確保の行政支援対策 ・移住体験や農業体験の拡大 ・借地の斡旋

※農産物の加工・商品化・販売については行政・農協・農家等の連携が必要であることが挙げられた。

※また、地域内の交流が盛んであることから、農業に従事する高齢の方から農業について学ぶ機会を設けたり、お母さん世代がレシピを教えたりと市民が協力することでコミュニケーションの拡大を図っていくことが挙げられた。

① 全体講評（進行役）

ワークショップ(以下「WS」という。)に初めて取り組む方も多かったが、沢山の意見が挙げられていた。今回のWSのお題は、初めての方には難しいものであったが、具体策や担い手まで十分に検討されていた。

最初はなかなか良いところを見つけることができなかつた方も、人の意見を聞いて、良いところを認識できるようになっていた。

どのグループにも共通して言える、北会津地域の良い点としては、「農産物が豊富」という点であったが、「流通」に対する課題が問題として挙げられていた。また、「交流」というキーワードも各グループで挙げられていた。交流する先としては、消費者のほか、海外、修学旅行生、子どもなど様々な対象が挙げられていた。

さらに、「発信」というキーワードも各グループで挙げられていた。マスコミで大々的に取り上げてもらうという意見もあったが、まずは地域の若者に役割を担ってもらう等、足元からの取組が重要ではないか。

行政・農協・農家との「連携」が重要という意見もあった。これまでは、地域が豊かであるが故に、様々な主体が様々なことに、個別に取組んできたようであるが、これからは各主体が協力・連携して取組むことでさらに地域が活性化されると思われる。

今回のWSを、自分たちの地域の良いところを認識し、地域の豊かな暮らしに結び付けるための行動のきっかけづくりにしてもらいたい。

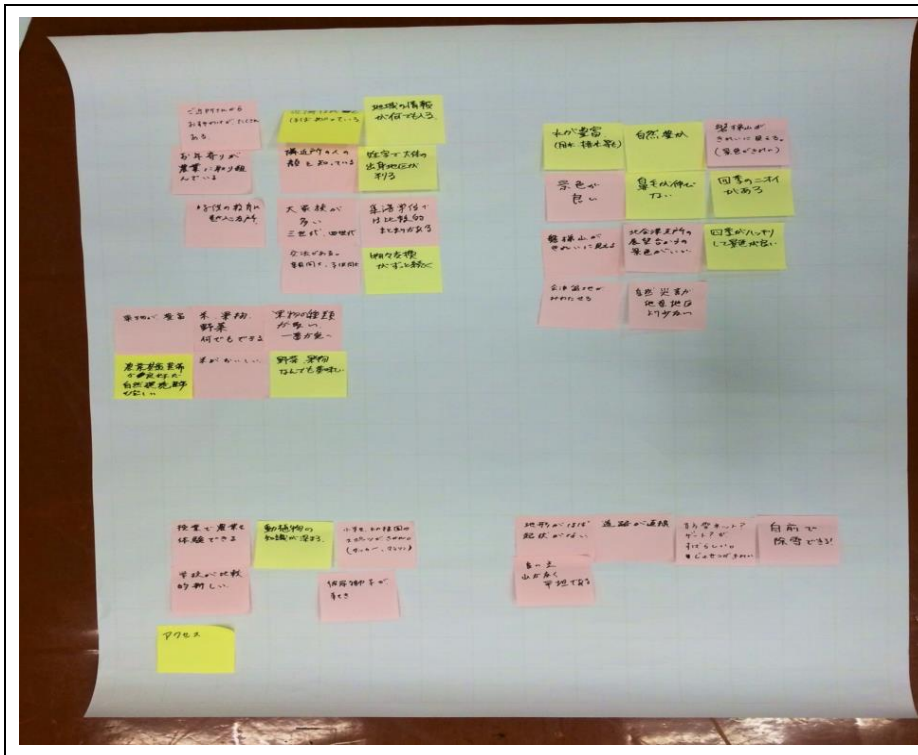
5. 事務連絡（企画調整課）

6. 閉会（企画調整課）

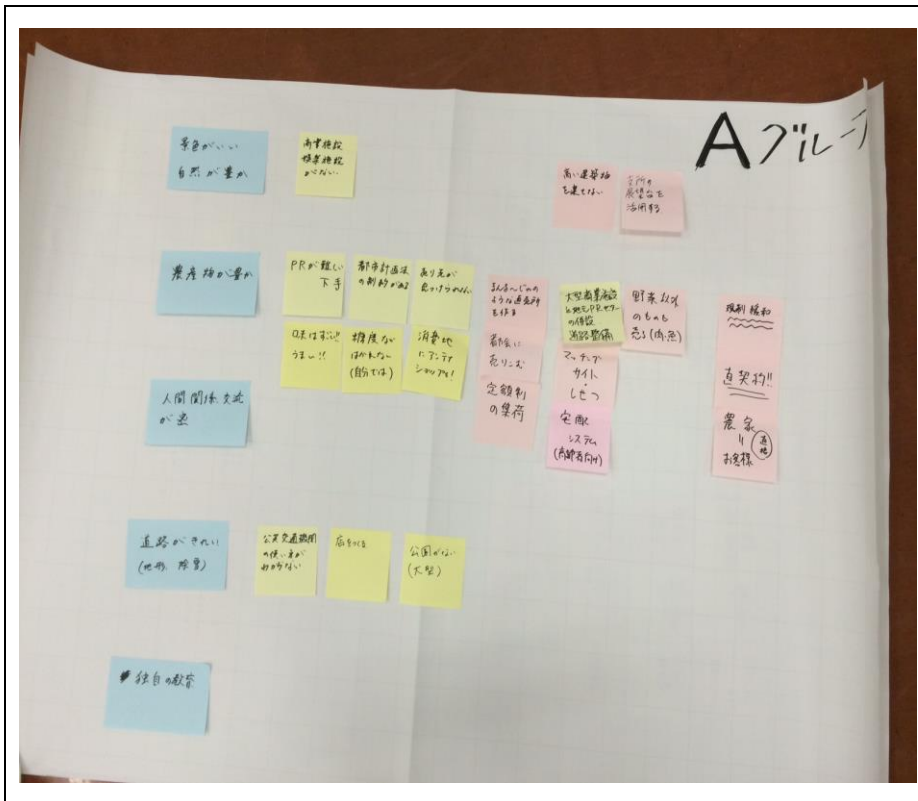
【意見 (写真)】

Aグループ

《作業》

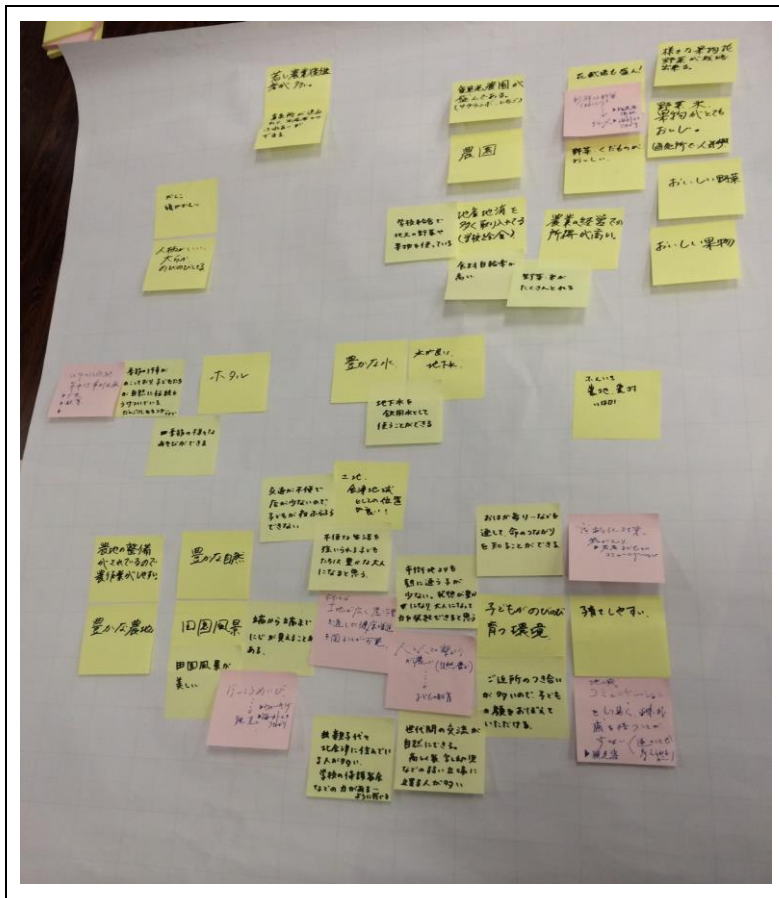


《取組体制、方策》



Bグループ

《作業》

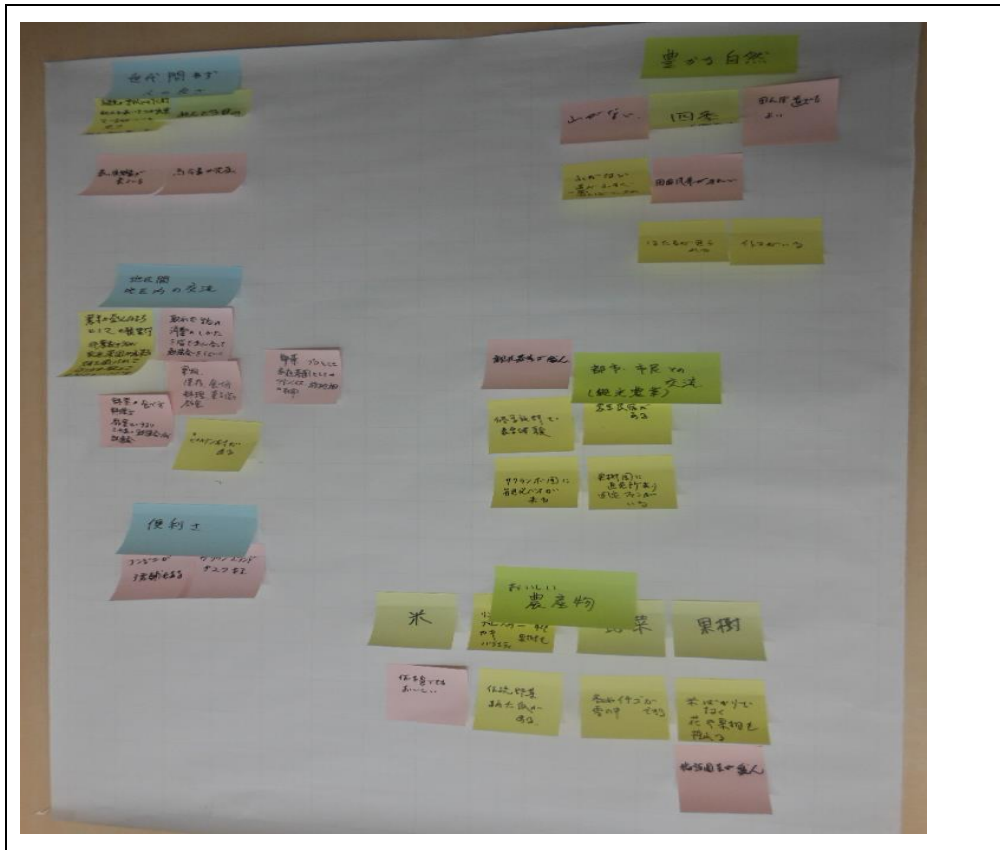


《取組体制、方策》



Cグループ

《作業》



《取組体制、方策》

